

学位（博士）論文要旨

看護学専攻 理論看護学分野 基礎看護学 教育研究領域	学籍番号 0833002 氏名 越智早苗
論文題目	大学病院の総合案内における看護の専門性 —経験の長い看護師の実践分析を通して—
Keywords : 総合案内、三重の関心、看護の専門性、看護過程、指針	
本研究の目的は、総合案内で行った自己の看護実践における思考過程の特徴を分析して、総合案内における看護の専門性を明らかにし、看護管理上の実践指針を作成することである。	
研究対象は、大学病院総合案内における3年間の自己の看護実践で、研究方法は、まず毎日の報告書と会話のメモをもとに、看護一般に照らして、看護になり得たと判断した場面をプロセスレコードに再構成して資料とする。その内容を総合案内の機能に添って分類し、分類ごとに一般性の高い事例を選び出して研究素材とした。研究素材における自己の認識の特徴を明らかにするため、「観察事項」、「描いた方向性と判断根拠」の項目をプロセスレコードの枠組みに追加した分析フォーマットを作成して、各項目に、研究素材を精読してキーセンテンスを記入する。分析は、看護師の思考過程に着目し、その看護現象をどのようにとらえ、どのように判断して方向性を描いたか、それはどのような判断根拠をもっていたかを抽出する。以上の判断過程から対象への関心の注ぎ方を明らかにする。	
研究結果：資料は91事例で、分類内容は、緊急対応6事例、受診相談64例、療養相談12例、苦情対応6事例、その他3事例であった。受診相談については実践結果により6項目に細分し、選定した研究素材17事例を分析した結果、総合案内における実践指針として44項目を抽出、これらの共通性と相違性を吟味して、総合案内の看護の専門性を明らかにしつつ総合案内の看護管理上の実践指針6項目を抽出することができた。	
指針1 いのちの脅かしの有無を瞬時に判断して、あれば生命の維持機能の治療過程に繋げ、なければ他院を含めた治療の場の選択を行う。他2指針	
指針2 適切なトリアージを行うには、当該病院が備えている医療内容と、その場の特殊性を熟知していること。 他1指針	
指針3 精神的な問題から生じた感覚器の知覚異常と判断した場合は6、7か月位前からの生活過程の中で負担がなかったかを聞く。他1指針	
指針4 受診相談に来た患者に医療の継続性と医療費軽減ができる医療連携システムを紹介する。	
指針5 負の感情を抑制すると身体に障害ができる（不安の身体化）ことがあるので悲しみを十分表出するよう伝える。他2指針	
指針6 病院の不手際による患者からの苦情に対し、まず謝罪し、患者の心を整え、問題解決に向けて各部署と連絡を密にして調整する。他1指針	

1200字 A4

指導教員氏名（自署）：

越智早苗

平成 23 年 2 月 14 日

宮崎県立看護大学大学院

研究科長 薄井 坦子 様

学位論文（修士・博士）審査委員

主査 氏名（自署） 薄井 坦子

副査 氏名（自署） 寺島 久美

副査 氏名（自署） 菅沼 みよ子

副査 氏名（自署） 菅野 章子

学位論文審査及び最終試験の結果報告書

このたび、審査委員会として、学位論文（修士・博士）の審査及び最終試験を終了したので、その結果について下記のとおり報告します。

記

学生氏名	越智早苗		学籍番号 0833002	
看護学専攻	理論看護学		指導教授氏名 薄井 坦子	
成績評価	学位論文	合 格	最終試験	合 格
論文題目	大学病院の総合案内における看護の専門性 —経験の長い看護師の実践分析を通して—			
審査要旨	<p>本研究は、特定機能病院の総合案内における自己の3年間の看護実践から、看護になり得たと思われる91事例を分析し、看護の専門性を明らかにして管理実践指針10項目を導き出したものである。予備審査では、総合案内の重要性がようやく指摘され始めた時期に、多岐にわたる実践内容を浮き彫りにしたことが高く評価され、分析過程・指針抽出過程の事実的な裏づけを丁寧に進めるよう求められた。</p> <p>本審査では、選定した17事例に対する瞬時の対象・認識・表現のプロセスが看護の専門性に貫かれていることを示した点、および導き出された指針の有用性は認められたが、分析過程の一貫性と指針の抽出過程を表現するよう求められた。再審査の結果、分析過程が明確となり、総合案内における看護の専門性を、管理実践指針として可視化した点で、理論看護学上価値ある研究として認められた。多くの課題をかかえている今日の看護実践現場において活用されうる論文として、形式面を整えて完成度をあげるよう助言された。</p>			